

# 西郷どんが訪れた鹿屋

明治維新150周年にあたる今年、NHK大河ドラマ「西郷どん」が放送されるなど、明治維新の立役者「西郷隆盛」への注目が全国で集まっています。鹿児島市出身の西郷ですが、明治政府の要職を辞めてから西南戦争が勃発するまでに、鹿屋を訪れています。ここでは、あまり知られていない鹿屋での西郷の話や、ゆかりの地などを紹介します。

問 市ふるさとPR課（2階） ☎0994311121

## 狩りに訪れた西郷

明治6年、明治政府内での意見の対立に破れた西郷隆盛は、職を辞め、帰鹿しました。その後、西郷隆盛は年に数回、鹿屋の高須を訪れています。宿泊所は高須川沿いの田中吉右衛門宅。この家が一番大きくて立派で、船から来た際に便利であったこと、また当主吉右衛門

が大柄の肥満体で、容姿や性格が西郷と似ていて、話が合ったからだともいわれています。西郷は高須を基点にして、近くの山野や高山・小根占（現・南大隅町根占地域）・大根占などにも出かけ、ウサギ狩りをしていました。常に犬を8匹くらい連れていたといえます。西郷は大きな体に似合わず機敏で、鉄砲打ちの名人だったお

供が、その速さに付いて行けなかったほどでした。吉右衛門は西郷のことを「だんな」と呼んでいましたが、西郷には少しも気取ったところがなく、住民らと囲炉裏を囲んでゆつくりとくつろぎ、様々な話に花を咲かせていたようです。

## 私学校の生徒の反乱

不平士族たちの明治政府への反感が高まると、明治7年以降、全国各地で乱が相次ぎます。そして明治10年1月31日、鹿児島でも私学校の生徒たちが、草牟田・磯の火薬庫等を襲撃する事件が発生。

2月1日、小根占に滞在していた西郷は、この知らせを受けると、「ちよつ、しもたー」とつぶやいたといわれます。

## 「オイドンが出にゃヤッスイメカイ」

西南戦争の出陣前にも、西郷

は高須に滞在していました。

田中吉右衛門の息子・喜袈婆

（当時10歳）の証言では、「鹿児島から来た舟は、大きくなり舟で、漕ぎ手が5人で、迎えの人は背のすわりとしたやややせ型の立派な武士で、父が、この人は翁（西郷隆盛）の弟（小兵衛）だ、と言った。」この迎えの人が来ると、翁は「オイドンが出にゃヤッスイメカイ（私が出ないとダメだろう）」と言って間もなく、宿の前の岸から舟に乗らされた。それは明治10年の元旦（新暦で2月12日）の未明頃で、大潮で川はいっぱいに満ちていた。」と、あります。

## 西南戦争と終焉

西郷が高須を離れた後の2月15日、数十年ぶりといわれる大雪の中、薩軍の一番大隊が鹿児島から熊本方面へ出陣しました。「今般政府へ尋問の筋これあり」との大義のもと東京を目指した薩軍でしたが、熊本をはじめ九州各地で明治政府軍の抵抗に遭い敗走します。そして9月に鹿児島島の城山で西郷は自決。二度と鹿屋へ戻ってこるとはありませんでした。

※参考文献「鹿屋市史」「鹿屋郷土誌」

### INTERVIEW



西郷隆盛が泊まった田中吉右衛門邸について語る

田中 貞子 さん（高須町）

夫の田中陽藏（故人）が、田中吉右衛門の直系のひ孫にあたります。私も田中家に嫁いだから家を建て替えるまで、西郷さんも泊まった家に家族と住んでいました。

西郷さんは縦にも横にも大きかったと聞いています。夫も小さいときから西郷さんにまつわる話を聞いて育ちました。庭には石風呂やイチジクの木、西郷さん愛用のチョッキ・羽織袴も以前は残っていたようです。

現在は護岸が整備されていますが、昔は家の縁側から石段を下ると、高須川に直接降りることができました。最近では、西郷さんの足跡を訪ねて高須のまちや石碑などを見に来られる方が増えていますよ。



西郷隆盛が宿泊した田中吉右衛門邸（「鹿屋郷土誌」より）